

2024年5月8日

各 位

会 社 名 株式会社ナカボーテック  
代表者名 代表取締役社長 木 村 浩  
(コード番号：1787 東証スタンダード市場)  
問合せ先 執行役員 総務部長 浅 木 直 嗣  
TEL 03-5541-5801  
soumuir@nakabohtec.co.jp

### 「23 中計」進捗報告 -2023 年度決算および 2024 年度見通し-のお知らせ

当社株式会社ナカボーテック（社長：木村 浩）は、「23 中計」進捗報告 -2023 年度決算および 2024 年度見通し-を取り纏めましたのでお知らせいたします。

1. 計画の名称 計画の名称 23 中計
2. 期間 2023 年 4 月 ～ 2026 年 3 月
3. 概要 添付『「23 中計」』進捗報告 -2023 年度決算および 2024 年度見通し-』をご参照ください。

#### ◇添付資料

「23 中計」』進捗報告 -2023 年度決算および 2024 年度見通し-

# 「23中計」進捗報告

－ 2023年度決算および2024年度見通し －

2024年5月8日

株式会社ナカボーテック

- 2023年度売上高13,780百万円（「23中計」2023年度計画に対し3.6%の増収）、経常利益は1,205百万円（同32.4%の増益）となりました。

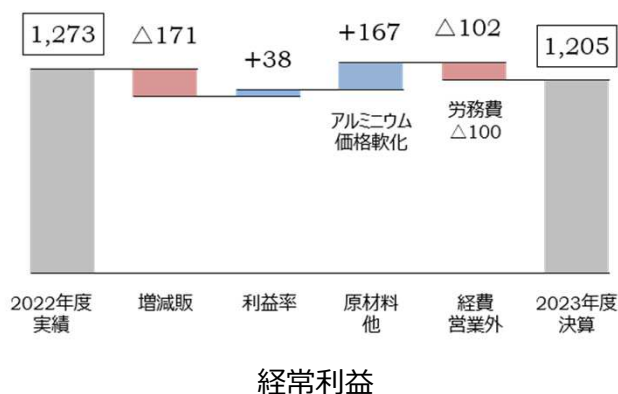
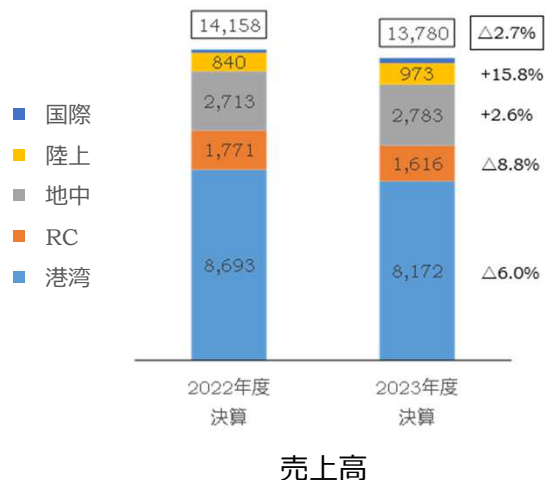
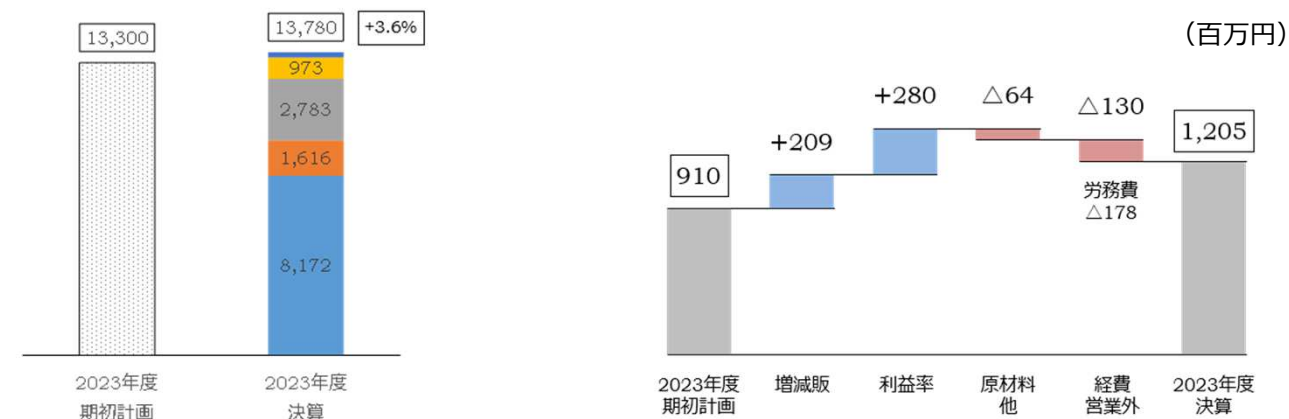
(百万円)

	「23中計」2023年度計画	2023年度決算	差異
受注高	13,300	13,837	+ 537 (+ 4.0%)
売上高	13,300	13,780	+ 480 (+ 3.6%)
経常利益	910	1,205	+ 295 (+ 32.4%)
当期純利益	630	835	+ 205 (+ 32.5%)

- 新規事業では、洋上風力分野で2件の施工・材料納入の成果があり、橋梁RC分野でも多数の施工実績を重ねました。
- 2024年度は、売上高13,620百万円、経常利益1,016百万円と、概ね「23中計」で計画した水準の売上高・経常利益を見込んでおります。
- ESGへの取り組みでは、「内部ステークホルダーのエンゲージメント向上」に資する仕組み・ツールの大規模導入を進め、その定着を図りました。一方、「気候変動リスクへの対応」は活動が緒についた段階であり、2024年度以降、精力的に進めてまいります。

# 2023年度決算：事業総括

- 2023年度売上高は対前年度では2.7%減少しましたが、対期首見込み（「23中計」初年度）では3.6%の増加。前年度に大型案件が多数出件した港湾事業の反動減を地中・陸上事業がカバーする形となりました。
- 損益面では、昨年度高騰した原材料（アルミニウム）価格の軟化はあったものの、港湾事業の反動減影響が大きく、経常損益は対前年度△68百万円（△5.3%）の減益となりました。対期首見込みでは、利益率好転の影響が大きく295百万円（32.4%）増益の1,205百万円となりました。
- 新規事業への取り組みでは、洋上風力発電分野において、「富山県入善町沖洋上風力発電施設」の施工、「石狩湾新港洋上風力発電所」への材料納入を行いました。また、新規のプロジェクト1件を受注いたしました。橋梁RC分野では、NAKAROD®を始めとする種々の工法による多数の施工実績を積みました。



洋上風力発電設備全景



ケージに取り付けられたアルミニウム合金陽極



モバイル内面用亜鉛合金陽極

富山県入善町沖洋上風力発電施設

# 事業環境変化と2024年度見通し

- 「23中計」策定時と事業環境に大きな変化は認められず、今後も港湾事業を中心に堅調に推移するものと予想しております。そのため、各事業の「23中計」における取り組みも変更していません。
- 「23中計」の位置付けについても、策定時と変わらず「事業基盤整備の期間」として取り組んでまいります。
- 2024年度につきましては、「23中計」策定時に見込んでいた海外港湾の大型案件が延期となる見通しであることの影響が大きく、他事業での挽回を織り込むものの、対2023年度及び「23中計」2024年度計画に対して僅かに減収・減益となる見込みです。
- 現時点で、2025年度計画、及び、2030年度目標の売上高・経常利益は「23中計」策定時から据え置くこととしております。

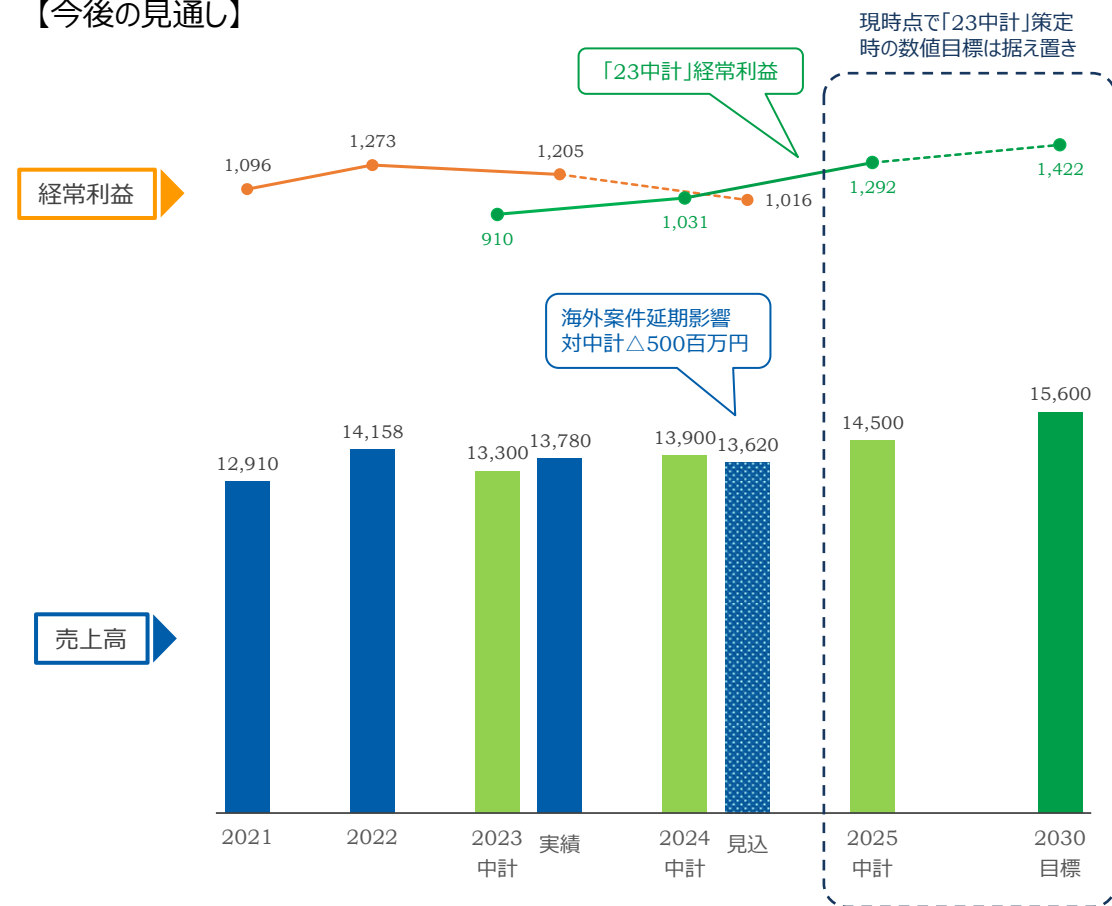
## 【事業環境と取り組み】：大きな環境変化はなく、取り組み内容も変更なし

事業	事業環境見通し	「23中計」における取り組み
港湾事業 港湾RC事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>未防食、或いは、更新時期を迎える要防食施設は国内に相当数存在する</li> <li>CNP、洋上風力発電施設基地港、防衛関連施設整備などの新規需要により、市場規模は拡大する</li> <li>港湾RC施設は、塩害による劣化がより顕在化してくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設それぞれに対する最適な防食工法の提案を行い、事業規模の拡大を図る</li> <li>新規需要への参入に向けた営業・提案活動に注力する</li> </ul>
地中事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋設管の新設工事は減少状態にある</li> <li>市場は調査点検と更新工事を中心となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査点検業務の省人化を図る技術の導入を加速し、収益力を強化する</li> </ul>
陸上事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>主力の発電所市場はエネルギー政策によって対象施設や市場規模が大きく変化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実績ある火力・原子力発電施設対応に加え、業界動向に即応して各関連施設に参入出来る準備を進める</li> </ul>

## 【「23中計」の位置付け】：「事業基盤整備の期間」として変更なし

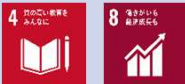


- 港湾事業を中心とした**堅実な業績確保**
- 中計期間後に新規事業が成長ドライバーとして収益貢献するための**基盤形成**
- 業務効率化によりコストを削減し、**体質を強化**
- 投下資本を効率的に運用し、健全な財務状況を維持
- 配当性向は現状方針の70%を継続

## 【今後の見通し】



# ESGの取り組み① 「内部ステークホルダーのエンゲージメント向上」

- 協力会社様を含めたエンゲージメント向上を重要な経営課題と位置付け、「働き易さ」と「働き甲斐」双方の向上に向けた、処遇改善を含む施策を企画・実行しております。
- 2023年度は、デジタルツールの導入を積極的に推進し、その活用を開始し、定着を図りました。
- 2024年度は、抽出された課題への対応を中心に、エンゲージメント向上の具体的な方策を企画・実行してまいります。

取り組むべき課題	「23中計」における取り組み計画	23年度の実績
<p><b>1</b> 「働き易さ」、「働き甲斐」を両立し、双方の向上に資する施策の企画と実行</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ライフプラン支援金導入によるベースアップ等の処遇改善</li> <li>• 奨学金返済にも利用可能な福利厚生制度導入</li> <li>• スライド勤務制度導入・テレワーク促進・育児介護休暇制度活用奨励等、多様な働き方への対応</li> <li>• 資格取得・自己啓発の支援強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2023年度のライフプラン支援金導入によるベースアップに続き、2024年度は平均3%のベースアップを実施</li> <li>• 福利厚生制度による奨学金返済が定着</li> <li>• スライド勤務制度・育児介護休暇制度の定着</li> <li>• 人材管理システムを導入し、従来の「自己申告」に加え、「パルスサーベイ」による課題抽出を開始</li> <li>• パーパス・スローガンの浸透と定着を図るためのロゴデザイン、ポスター制作と掲示</li> </ul>
<p><b>2</b> ワークライフバランス向上に加え、建設業2024年問題* 対応のための業務効率化</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 施工管理用デジタルツールの大規模・迅速な導入</li> <li>• バックオフィス業務効率化のための経費精算システム刷新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 業務効率化のためのデジタルツール★ の大規模な導入と定着</li> <li>★ 現場写真管理、文書管理、協力会社労務管理、人事・人材管理、経費精算、ビジネスチャットなど</li> </ul>
<p><b>3</b> 戦略的な人財の確保と育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 多様な人財確保のため、新卒／キャリア、男性／女性のバランスが取れた採用活動</li> <li>• インターンシップ制度導入、採用ホームページ刷新</li> <li>• 教育・研修制度の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 採用活動の強化             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 採用ホームページ刷新、動画サイト開設、インターンシップ制度導入、専任担当者の配置など</li> </ul> </li> </ul>

\* 建設業2024年問題：「働き方改革関連法」が2024年4月より建設業に適用されることに伴って解決すべき諸問題。



# (ご参考) パーパス・スローガン浸透のためのポスター、ロゴデザイン



「パーパス」ポスターデザイン

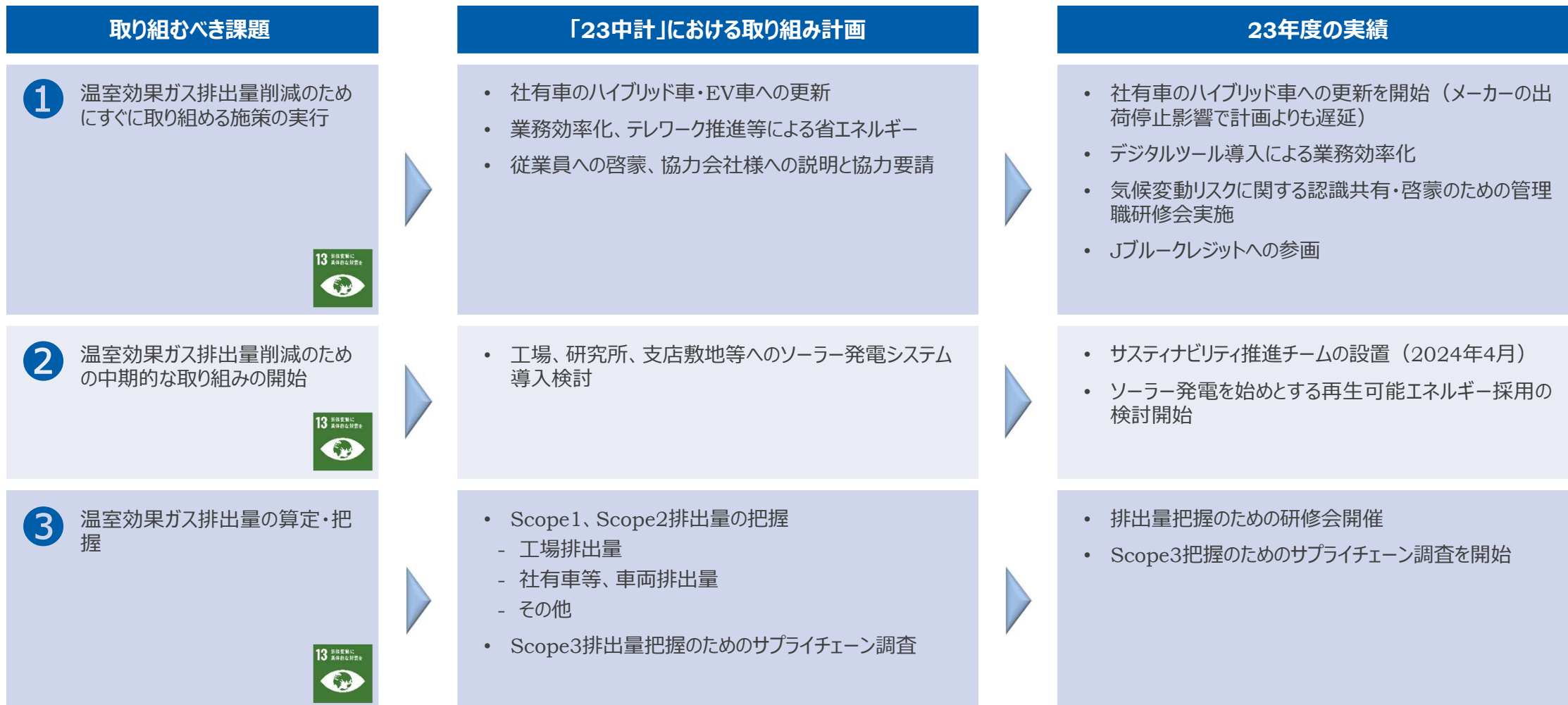


「スローガン」ロゴデザイン

# ESGの取り組み② 「気候変動リスクへの対応」



- 地球温暖化や異常気象など気候変動に起因する様々なリスクに対し、責任ある企業活動を行うべく、具体的な取り組みを開始いたしました。
- 2023年度は、主に取り組み開始のための環境整備を実施いたしました。
- 2024年度は、遅れているハイブリッド車への更新を進める一方、温室効果ガス排出量の把握と、排出量削減の目標設定・具体策構築に取り組んでまいります。

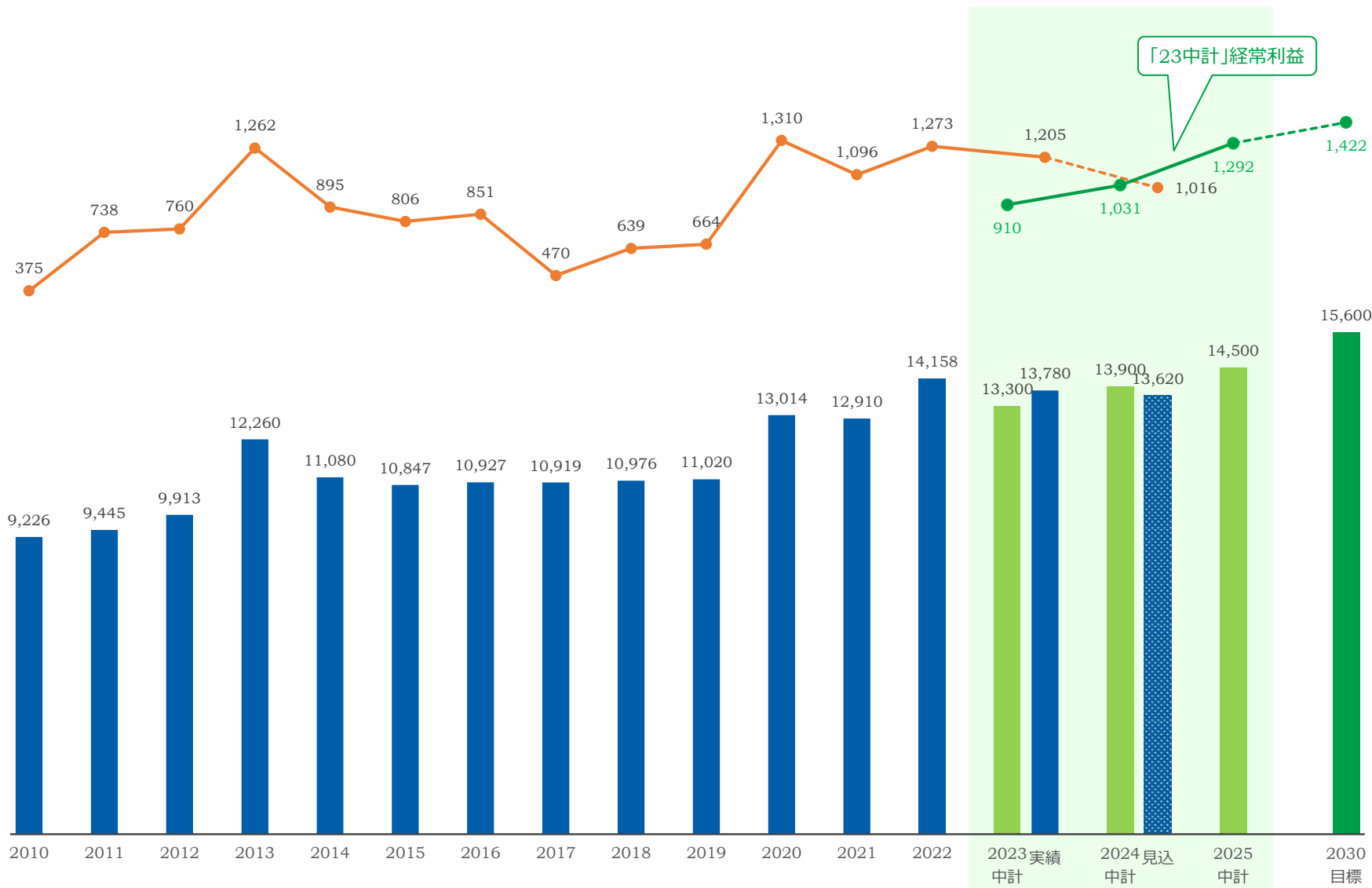




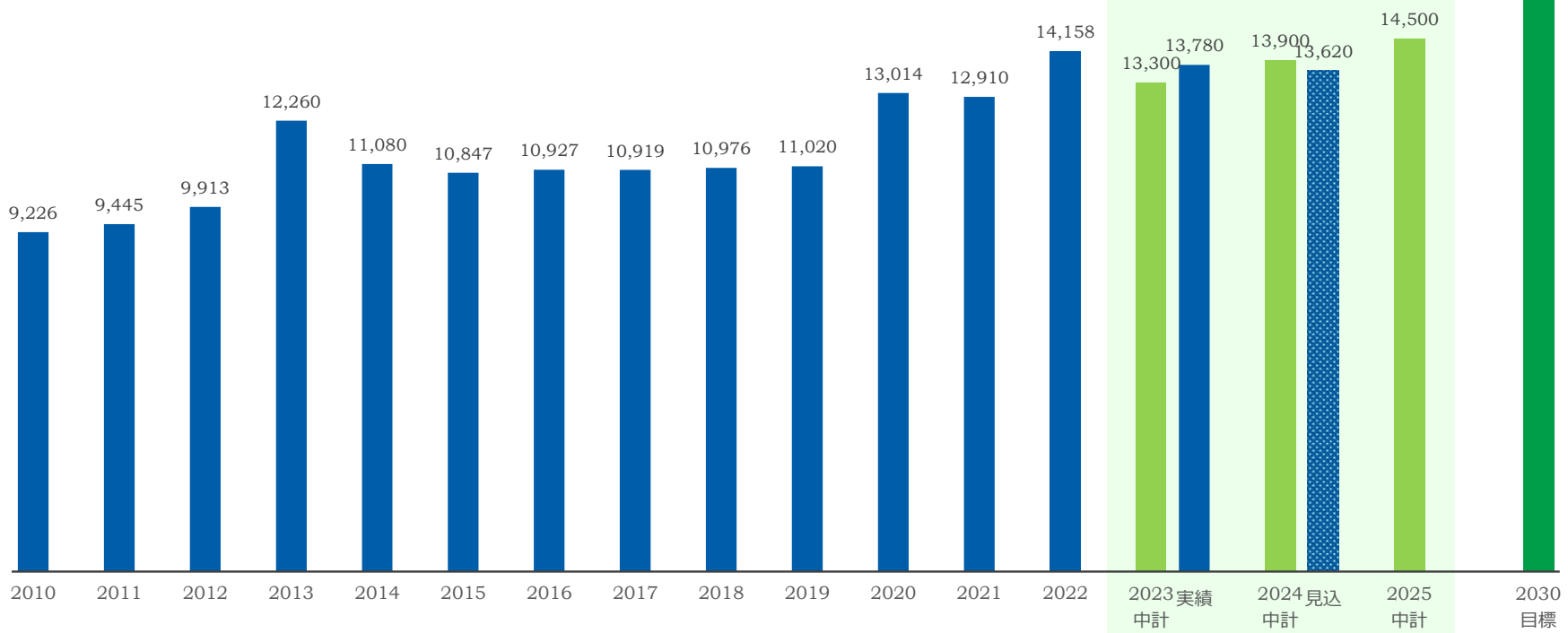
# (ご参考) 2010年度以降の業績推移



経常利益



売上高



「23中計」期間

